

ペットボトルトラップ編 in 釧路

渡辺展之

調査館では、動物や植物を封入した樹脂標本を製作するうえで、標本の調達は重要な課題の一つです。動物の標本は、見つけ採りできることも少ないので、トラップをしかけて採集することがよくあります。今回は魚を捕まえるのに用いられ、誰でも作れるので重宝されているペットボトルトラップを使って、ザリガニ捕獲にチャレンジしたのでその模様をお伝えしましょう。

ターゲットは

今シーズンは釧路湿原・達古武地域に調査で出かけることが多く、また釧路湿原関係の施設展示の仕事で標本を手に入れる必要があったため、その地域で動物や植物の標本採集を頻繁に行ないました。今回の採集対象の一つが水生生物で、その中でも特にザリガニがターゲットです。釧路でザリガニといえばウチダザリガニというぐらい、帰化生物であるウチダザリガニが増えていきます。在来のザリガニも生息していますが、ウチダザリガニがその生息を脅かすとも言われ、現在の釧路湿原の生態系を説明するうえで、この2種は欠かせない存在になっています。

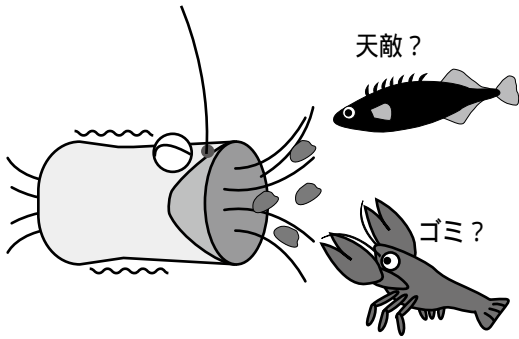
ザリガニを捕まえるならペットボトルトラップが簡単との話を聞いていたので、さっそく2リットルのペットボトルを使ってトラップを作ります（全部で20個ぐらい）。作ったトラップをどのポイントにしかけるかは、事前にどの場所にいるかの情報を集めて決めます。ウチダザリガニは、水深が深くて流れがゆるく、水がかなり濁っているような場所のにおいて、反対にザリガニは溪流のきれいな水で湧水のような低い水温が保たれる場所にいます。そこで、川の上



流はザリガニ用、下流ではウチダザリガニ用としてトラップを仕掛けました。最初に仕掛けたのは7月ごろで、1回の釧路滞在は長くても5日程度なので、滞在中は調査の合間などにトラップを確認するようにして、その後は再度来るまでの数週間トラップをかけっぱなしです。中のエサはそのつど適宜かえておきます。こんな感じで10月ごろまで設置しました。

トラップにかかった生き物 - 下流 -

トラップを仕掛けた川の下流付近では、トラップ10回に1回ぐらいの割合でウチダザリガニがかかっている、設置期間の合計で3匹ほどかかりました。しかし、トラップ設置してから数日で捕まえるのは難しく、数週間放置しておいて、シルトが堆積してドロドロになったトラップの中から泥まみ



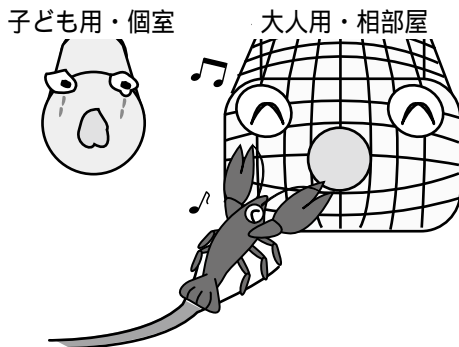
食べがいありそうなウチダザリガニ

れのウチダザリガニが発見されるといった感じです。それにしてもシルトは鼻につく悪臭でよくこんなところで生きているなあと感心させられます（しかもこれを人が食べるのかあ?）。また、これを読んでいて「あんなに大きなウチダザリガニを捕まえるのにペットボトルでいいのか?」と思われた方もいるかもしれません。その通りで2リットルのペットボトルでは口が小さいので、それにあつた小物のウチダザリガニでしか捕まりません。



この後、大きい個体を捕まえるために、魚をとるためのドウを用意して仕掛けたところ、翌日には食べられそうな大きな個体が捕まり、ウチダザリガニに関してはドウが有効という結論にいたりました（ただし、ドウの網目は大きいので、小さいウチダザリガニが欲しい場合にはペットボトルトラップが有効）。ちなみに、トラップにはザリガニの他、ウキゴリ・ヌマチチブ・トミヨなどの魚がかかりました。また、河跡湖

にしかけた場合では、大量のゲンゴロウモドキがかかりました。水生植物が多く水もきれいな場所なので、ウチダザリガニはすんでいなかったようです。

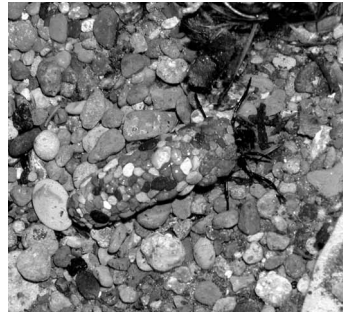
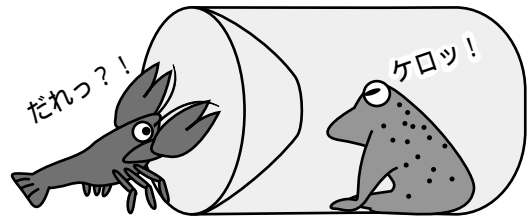


ゲンゴロウモドキ大豊作

トラップにかかった生き物 - 上流 -

溪流にトラップをしかけるとときには、小さな沢では水量が少ないので、トラップの口が水に全部つかからないときもあります。そのために思いがけない生き物もつかまりました。トラップにエゾアカガエルがケロツとたたずんでいるのはまだ良かったのですが、トガリネズミやアカネズミが中で死んでいたのはショックです。おそらく、トラップ設置期間中に沢の水量が少なくなって口が水面に出たときに入ったものだと思いますが、そんなに水際を利用していることやトラップに入れる大きさとは思わなかったので、まさか哺乳類がつかまるとは思ってもみませんでした。一方、十分な水量があるところでは、ハナカジカやジョウザンエグリトビケラなどの魚や水生昆虫がつかまっていて、小さな沢でも幅広い生き物がすんでいることを実感させられました。

当初の目的だったザリガニはというと、長い設置期間の間になんとか1匹を捕まえることに成功。沢でもかなり土砂の移動が激しいらしく、トラップ内にたまった土砂の中からザリガニが発見されました。しかし、一旦回収した後に落として見失ってしまい、せっかくの標本を取り逃がすことになってしまいトホホな結果に。トラップ捕獲1匹という結果も何とも寂しいものでしたが、これは、やり方が悪いのか？、元々少ないのか？…。ザリガニがいる場所でトラップをしかければたくさん捕まるという話を聞くけど本当なのか…。水中をザリガニが歩く姿が見られるほどたくさんいる場所を見たことがない自分には、環境を見てザリガニが多いか見極めるのはなかなか難しいところです。今回逃げたザリガニ以外で、何者かに食べられたザリガニの死骸が



ジョウザンエグリトビケラ



捕獲後逃がした（ニホン）ザリガニ

1匹だけでした。ザリガニのいそうな雰囲気があるのに捕まらないのは、増えているミンクに食べられて減っているなんてことがあるのかもしれませんが。

このように、釧路でのトラップの戦績は在来ザリガニについては今一つの結果に終わりました。これを読んで、そんなものすぐに捕まえることができるよという方がいらっしゃましたら、事務所までご連絡いただけるとうれしいです。